

profile

きしだみつよ／東京都生まれ。1983年北里大学水産学部卒業後、東京大学海洋研究所の研究生となる。1986年イギリスのバース大学で研究員として、魚類のメラニン凝集ホルモンについて研究。1993年アメリカのロートアイランド大学で理学博士号を取得。その後、同大学理学部、海洋学大学院でリサーチアソシエイトとして魚類の内分泌・生理学分野の研究を続ける。1997年ボストン大学でシニアリサーチアソシエイト、リサーチインストラクターを務める。2001年帰国。熊本大学大学院自然科学研究科講師、同大学院自然科学研究科附属総合科学技術共同教育センター講師、准教授を経て、2012年より現職。2009年より熊本大学男女共同参画コーディネーターを務める。



Role Model

11

Be true to yourself ! 社会のために、人のために「何ができるか」

岸田光代 熊本大学大学院自然科学研究科附属総合科学技術共同教育センター教授

水産学部
研究科(研究生)
博士課程(理学)
大学研究者
大学教員
帰国(海外に15年間)
大学教員

One day

7:00 起床→朝食
9:00 大学へ
9:30 就業
講義・研究指導・論文・会議
(出張も多い)
20:00 終業時間は日によって様々
22:00
1:00 就寝(夜型にならないよう注意)

海外では
いろいろな経験を
通じて自分の価値観を
確立することが
できました



Mitsuyo KISHIDA

生物系(動物生理・内分泌学)

子どもの頃の夢は“獣医”

周囲や家族には研究者を職種にしている人はいませんでした。私自身はごく自然に研究者としての進路を選択しました。

小さい頃から“生き物”が大好きで、子どもの頃は獣医に憧れていました。北里大学水産学部を卒業後、東京大学海洋研究所の研究生となり、その後はイギリス、アメリカなどに渡り、約15年間海外での研究を続けたあと、それまでの経験を日本で生かすことに意義があると思いついて帰国を決意。現在は、熊本大学大学院自然科学研究科附属総合科学技術共同教育センターの国際共同教育部門長として、研究科のさまざまな国際プログラムの運営や統括を行い、留学生の受け入れ、日本人学生の海外派遣、海外の大学とのネットワークの構築などを通じて、大学のグローバル化推進に携わっています。

ヒトの体や心に大きく影響する エストロゲンを研究

研究は「ホルモンと脳のはたらき」をテーマに、主にエストロゲンの初期発生における役割について進めて

います。エストロゲンはアロマトース(芳香化酵素)の働きによりアンドロゲンを基質として産生されるステロイドホルモンで、一般的には卵巣で産生される生殖に関わる女性ホルモンとして知られています。一方、エストロゲンは脳においても産生され、情報の処理と伝達を行う神経細胞の成長や分化などに作用します。

研究室ではヒトの疾患モデルとしても使われるゼブラフィッシュという魚を使い、生化学的な解析に加え魚の行動を解析することで神経細胞の活動を測定しています。魚の脳はエストロゲン産生能が高く神経細胞の修復機能も高いことから、エストロゲンと脳の発生の研究に適しているのです。

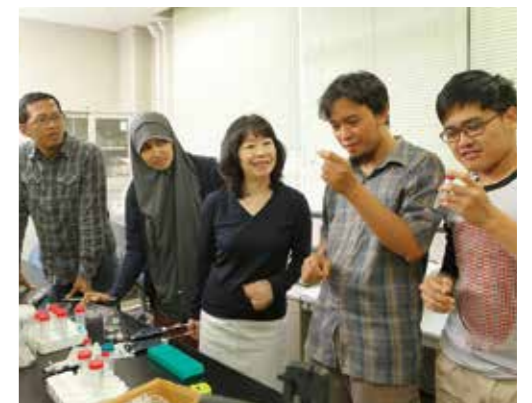
海外でのさまざまな 経験で個人としての 独立心を養った

海外では、さまざまな人種や文化を持つ人たちの中で自分を主張するとともに、お互いのちがいを理解し受け入れるという経験をしました。その間に自分の価値観を確

立することができ、おのずと目的や進むべき道が見えてきたのです。

特にアメリカの若者は自分の将来の夢を語るときに「誰かの人生に影響を与えたい」ということをよく口にします。日本の若い方もぜひ、自分がどのように社会や人のために役に立てるかを考えてみてください。自分の進路が自然に見えてくるのではないかと思います。

後輩のみなさんにアドバイスしたら「Be true to yourself !」(信念、強い意志を持ちましょう)ということでしょうか。興味のあること、好きなことを追求すれば、おのずと道が開いていくものですよ!



私の研究室は海外からの留学生がほとんどです。自分の留学体験から少しでも彼らのサポートができればと思っています